令和３年度

研究のまとめ

令和３年度　各支部のあゆみ

宮崎県教育研究会　図書館教育部会

①西臼杵支部　研究のまとめ

小学校１２校　中学校４校　合計１６校

１　研究主題

豊かな心と学びを育む学校図書館～学校司書・司書教諭の役割～

２　研究について

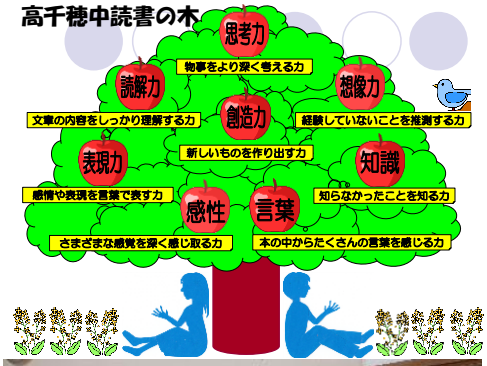
本年度も昨年度に引き続き「学校司書・司書教諭の役割」という研究主題のもと、各学校において研究実践を行った。本支部では、小中学校ともに小規模校が多く、司書教諭が発令されている学校は１校、学校司書が配置されている学校はない。町雇用の読書活動推進員が配置されている学校が小学校３校、中学校１校である。そのため、研究実践は以下のようにまとめた。

（１）図書館教育担当・図書主任を中心にした連携の在り方
（２）図書活動推進員や地域ボランティアとの連携による取組

３　研究の実際

（１）図書館教育担当・図書主任を中心にした連携の在り方

小中学校ともに、年度当初に全体計画や年間指導計画について共通理解を図り、学校全体での図書館教育の推進につなげている。職員間の連携による具体的な取組を以下に紹介する。



①　学校の統廃合による図書の移動・図書室整備（高千穂中）

令和３年度より、田原中学校が高千穂中学校へ統合されることになり、田原中学校の図書館より、高千穂中へ約２００冊の本を移動させた。それ以前の学校の統廃合による図書資料と合わせ、ラベリングやバーコードの貼り替え、書架整理等、図書館教育担当が中心となって計画し、図書館整備を職員全体で行った。

【整理後の書架の様子（高千穂中）】

②　情報・学習センターとしての図書館整備（上野小学校）

図書館教育担当による学級担任への意識調査の結果、図書館が授業で使いづらいことが明らかになった。そこで、「教材との関連」や「国語教科書における紹介図書」を加え、効率的に関連図書を利用できるように図書分類の見直しを行った。さらに、児童が自分で資料を探すことができるよう、検索機能の解放も行い資料活用能力の育成を目指した。

③　職員による読み聞かせ（押方小学校、日之影小学校）

秋の読書週間・読書祭り期間に合わせ、職員による読み聞かせを実施した。児童の希望する本をアンケートで聞いたり、聞いてみたい本を選択できるようにしたり学年の枠を外したりという工夫を行った。児童の興味関心を高めることができた。

【学年の枠を外しての読み聞かせ（日之影小）】

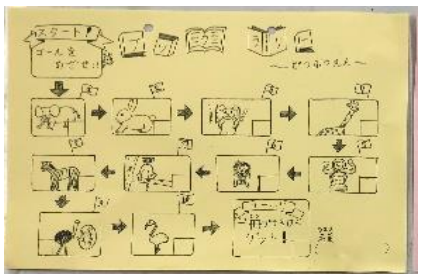
④　「読書週間・読書まつり」等によるその他の取組

各校において、年１回～２回、読書を推進するための催しを図書館教育担当や図書主任が中心となって、企画・運営している。

（各校の主な取組）
- 読書ビンゴ
- POP づくり
- ブックトーク
- 読書クイズ（読書検定）
- 本が原作の映像化作品鑑賞会
- 児童生徒選書会
- 家読週間の設定

「読書週間・読書まつり」の様子

【おすすめの本コーナー（坂本小）】


【スタンプラリー台紙（田原小）】

【読書検定（日之影中）】

（２）図書活動推進員や地域ボランティアとの連携による取組

①　図書活動推進員との連携（日之影町）

日之影町では、図書活動推進員（町雇用）が各校１名配置されており、週に１回、以下のような図書室運営や読書指導支援を行っている。

- 図書室の設営、配架、掲示物作成
- 図書の選定・廃棄の相談
- 児童生徒へのレファレンス、貸出返却処理
- お昼の校内放送や国語の授業での読み聞かせの実施
- 町立図書館の情報提供
- 読書通帳の発行と活用

【図書活動推進員による読み聞かせ（宮水小）】

②　教育委員会との連携

- 各校とも、地域ボランティアによる読み聞かせを年間計画をもとに実施している。
- 「『本』の魅力を語る！伝える！講座」が教育委員会・北部教育事務所主催で行われ、代表生徒１名が参加した。プロによる読み聞かせやオススメ本の紹介等もあり、本の楽しみ方を知る良い機会となった。（五ヶ瀬中）
- 町主催の「読書感想文・感想画コンクール」が行われることで、子ども達の読書活動の成果を表す機会となっている。（日之影町）

【講座でビブリオバトルに参加（五ヶ瀬中）】

③　公共図書館との連携

- 町立図書館や県立図書館の団体貸出を利用する際、各学年や教科によって図書を活用する単元を一覧にし、見通しをもって計画的に利用できるようにした。（岩戸小）
- 新設された町立図書館の愛称やイメージキャラクターの募集、「ひのかげ図書まつり」の催しに参加することで、図書への関心を高めた。（日之影町）

４　成果と課題

○　図書館教育担当や図書主任が中心となって、年間計画に沿って読書推進活動や図書館整備を工夫しながら進め、来室者や貸出冊数の増加につなげた学校が多かった。

○　図書活動推進員や読み聞かせボランティアとの連携で、読書環境づくりと読書の楽しさを児童生徒に味わわせることができた。

●　学校司書や司書教諭の配置がないため、限られた時間の中で工夫しながら購入図書の選書や書架整理等、読書環境の整備に取り組まねばならず図書主任への負担も大きい。学校司書の配置が進むと、専門知識をいかしたよりきめ細やかな読書推進活動が進められると考える。

（研究担当者　日之影町立日之影中学校　青柳　裕美）

②東臼杵地区　研究のまとめ

小学校　１０校、中学校　４校　義務教育学校　２校　合計校

１．研究主題

豊かな心と学びを育む学校図書館
～地域・家庭・公共図書館との連携をとおして～

２．研究の実際

本地区では、学校の地域が広範囲にわたっているため、支部会を開催する際にはそれぞれ遠方から集まる必要がある。そのため、研究会は読書感想画・感想文コンクールの審査と併せて年に１回の開催にとどまっている。

しかし、令和４年度の都北大会、令和５年度の九州大会で発表を担当することになっているため、今年度はその準備期間として活動する必要があり、次のように協議を進めた。

①あらかじめテーマについて各学校で考え、アンケートとして FAX で回答してもらったものを各地区（門川、美郷、諸塚、椎葉）ごとにまとめて当日配布した。②各地区ごとの小グループに分かれて情報を共有し、取組について質疑や話合いの時間を設けた。③各地区ごとに大会での発表の内容となる取組について協議を深めた。

以下①、③に関して、それぞれの学校、地区からの回答を述べる。

①について（各地区ごとの取組）

【門川町】

・町立図書館の利用　・親子読書　・家読　・学校間貸し出し

【美郷町】

・朝の読み聞かせ　・やまびこ文庫の利用　・公共図書館の出張貸し出し

【諸塚村】

・読み聞かせ　・ファミリー読書週間　・やまびこ文庫の利用

【椎葉村】

・読み聞かせ　・親子で読書カード　・村内図書館からの本紹介

地区によっては公共図書館がないところもあり、地区としての読書への取組に苦慮しているという学校もあった。家庭との連携についてはほとんどの学校で行っているという結果であった。

③について（各地区ごとの発表内容）

【門川町】

・学校図書支援員との連携
・「門川の子どもに読ませたい１００冊」の取組
・読み聞かせ

【美郷町】

・「美郷文庫」（町内での図書購入、循環による貸し出し）

【諸塚村】

・読み聞かせ
・ファミリー読書週間
・県立図書館との連携

【椎葉村】

・公共図書館からの図書紹介
・学校間の児童生徒による図書に関する交流

次年度からの発表に向け、各地区で取組を行っていくことを確認した。今年度末にその内容を集約し、発表内容の検討を行う予定である。

３　研究の成果と課題

（１）成果

〇次年度の発表に向けて、方向性や各地区での取組などを確認することができた。
〇各地区での取組について、小学校と中学校が連携して、研究内容など考えることができた。

（２）課題

●すべての学校が集まっての研修の機会がほとんどないため、全体での研究を深めることが難しい。
●小規模の学校が多いため、全体的に、蔵書数が少ない、担当する職員の負担が大きいなどの課題がある。

（研究担当者　美郷町立美郷北義務教育学校　藤本なつみ）

③令和２年度　日向支部　研究のまとめ

小学校１０校、中学校４校、小中学校３校、分校１校、小中合計１７校

「あさがおの会サークル」の活動の取組

はじめに

「あさがおの会サークル」は、日向市立細島小学校（全校児童９６名）の読み聞かせボランティアサークルである。今から１８年前に、保護者と学校の思いが重なり始まったと聞いている。

１　サークルのモットーと目的

サークル設立時の保護者は、子どもたちに絵本の素晴らしさや面白さ、本を好きになってほしいという願いや思いがあった。また、学校は、保護者の思いと職員朝会（8：10～8：25→15 分間）の時に、学習面や安全面に配慮した活動を模索しているときに始まったと聞いている。当時は、サークルのメンバーが６名以上いたので、すべての学年（単学級）で実施していたが、近年はメンバーが３名になり、下学年（１～３年）に絞り交替で取り組んでいた。

２　今年度の活動の概要

今年度、メンバーの１名が勇退されたため２名になった。このサークルの存続が危機になり、市雇用図書館司書と細島保育所の職員に参加を求めた。

図書館司書については、以前から読み聞かせに興味があったことと、実際に子どもを前にしてやってみたいという思いがあり、実現することになった。保育所職員の参加については、ほとんどの児童が細島保育所卒園なので、旧担任が１・２年生の様子を見てみたい、成長ぶりを確認したいという思いから、所長の許可を得て実現することになった。

１年生に読み聞かせをしている保育所職員

結局、今までのメンバーと図書館司書、保育所職員、計４名でスタートした。今までは、朝の活動時に行っていたが、図書館司書と保育所職員の勤務体制を考慮すると、教育課程の校時程の見直しをせざるを得ない状況であった。

そこで、職員朝会を終礼に換え、時間を 16 時 10 分に移動し、昼に、読書の時間 13：20～13：35（15 分間）を設定した。

近年は、４～６年生の読み聞かせの時間ができなかったが、４名のメンバーを確保し輪番にしたことで、６回中４回は、読み聞かせが可能になった。読み聞かせができない学年においては、担任と一緒に読書を楽しんでいる。

１年生に読み聞かせをしている図書館司書

3　今後の活動の展望

何と言っても、メンバーの数を増やすことが喫緊の課題である。今後は、PTA や区長会、回覧板等で、メンバーを増やしていきたい。また、今後も新型コロナウィルスがまん延した場合は実施不可になるので、前もって読み聞かせを録画したり、プレゼンを作成したりして、ストックしておくことも考えていく。

④延岡支部　研究のまとめ

小学校２７校、中学校１６校、合計４３ 校

１ 研究主題

『 確かな学力を身に付けた児童生徒の育成

～ 児童生徒の豊かな心を育み、自主的な学びを支える図書館運営を通して ～ 』

２ 研究の実際

⑴第1回「今年度の研究等について」

① 開会のことば
② 顧問校長のあいさつ
③ 会員の自己紹介
④ 役員選出
⑤ 新役員の紹介・あいさつ
⑥ 今年度の研究等について
⑦ 昨年度の報告及び今年度の予算等について
⑧ 県大会（令和4年度）、九州大会（令和5年度）について
⑨ 閉会のことば

⑵第2回「読書感想文・感想画コンクール審査会」

① 開会のことば
② 顧問校長のあいさつ
③ 読書感想画審査員（講師）の紹介（2名）
④ 審査の進め方の確認

◆　読書感想文

（1）　各校出品数と応募票を確認する。

（2）　学年・類別ごとに作品を分ける。

（3）　審査（自分の担当学年以外の学年を審査する）

※　小学校・・・各学年ごとにグループを作って審査を行う。
※　中学校・・・３学年に分かれて審査を行う。小学校の審査を手伝う。

（4）　県出品作品の確認

①　県出品名簿は審査グループごとに記入し、審査終了後に提出する。
②　各校の出品状況は、本部で学校応募票を見ながらエクセルに入力する。
③　県出品作品には【県出品】のカードをクリップでつける。訂正が必要な場合は、更に緑のプリントをつける。

（5）　作品の振り分け

①　県出品分は、学年・類別ごとにまとめる。
②　各校返却分は各校の出品者名簿に入選者名を記入し、選外作品は学校名が書いてある封筒に置く。

◆　読書感想画（多目的室）
（1）　各校出品数と応募票を確認する。
（2）　学年・類別ごとに作品を分ける。

（3）　審査
　① 2名の講師を中心に審査する。
　② 審査に参加する会員は、感想文審査の様子を見ながら交代で参加する。
　③ 県に出品する作品が分かるよう、裏面の応募票に付箋をつけておく。
(4)　全員で多目的室に移動し、講師から読書感想画の審査結果及び講評をいただく。
(5)　県出品作品の確認
　① 県出品名簿は審査グループごとに記入し、審査終了後に提出する。
　② 各校の出品状況は、本部で学校応募票を見ながらエクセルに入力する。
(6)　作品の振り分け
　① 県出品分は、学年・類別ごとにまとめる。
　② 各校返却分は各校の出品者名簿に入選者名を記入し、選外作品は学校名が書いてある封筒に置く。

⑤ 講師2名からの講評
　ア 読書感想画選定のポイント
　イ 読書感想画の指導法
　ウ 読書感想画に使える技法
⑥ 反省用紙の記入
⑦ 顧問校長のあいさつ
⑧ 閉会のことば

⑶第3回「県大会に向けてのプレ発表」「今年度の研究のまとめ」
① 開会のことば
② 顧問校長のあいさつ
③ 県大会（令和4年度都北大会）に向けてのプレ発表
　ア 研究項目E：学校司書・司書教諭の役割
　イ 発表者：小学校研究班
④ 質疑応答
⑤ 今年度の研究のまとめ
　ア 読書感想文・感想画コンクール審査会の反省
　イ 情報交換
　ウ 次年度に向けて
⑥ 顧問校長のあいさつ
⑦ 閉会のことば

3　研究の成果と課題
⑴　成果
〇第2回の審査会を通して、読書感想文・読書感想画の取り組み方や審査の方法など、支部内の意識およびスキルの向上を図ることができた。
〇令和4年度の都北大会、令和5年度の九州大会に向けて、発表内容を共有することができた。

⑵　課題
〇読書感想文・感想画コンクール審査会において、県審査に出品できる読書感想文が少なかった。次年度は県審査に出品できる良質な作品が増えるよう、児童生徒への早めの呼びかけや丁寧な指導を心がけていきたい。
〇令和4年度の都北大会、令和5年度の九州大会に向けて発表内容を充実させるため、協議を重ねていく必要がある。

〈 研究担当者　延岡市立加中学校　三輪恵子 〉

⑤西諸支部　研究のまとめ

小学校　２１校、中学校　１５校、合計　３６ 校

１　研究主題

『豊かな心と学びを育む学校図書館　～魅力的な学校図書館づくりを通して～』

２　研究の実際

文部科学省のガイドラインにあるように、学校図書館は、「読書センター」、「学習センター」、そして「情報センター」としての重要な機能を有しており、学校に欠かすことのできない重要な施設といえる。また、小林市には「小林市学校図書館支援センター」があり、市内の小中学校には図書館協力員が配属され、各小中学校に、地域の方や保護者等で構成された読み聞かせボランティアのグループが組織され、連携を軸とした図書館教育の充実に取り組んでいる背景がある。

そこで、西諸県支部においては、本年度の研究内容「豊かな心と学びを育む魅力的な学校図書館」づくりを目指し、学校図書館の各センター機能に視点を当て、小林市内の各小学校の実践の一部について報告する。

(1)　読書指導の場「読書センター」としての実践

①　学校組織での取組（職員間連携）

ア　縦割り班でのふれあい読書による児童間の読書啓発※細野小

下学年時から図書館活用への意識向上を図るため、縦割り清掃の班で上学年が事前に本を選び、掃除の時間を活用して下学年への読み聞かせを行っている。

イ　職員による全校への読書啓発（呼びかけ）※小林小

全校児童に向けて、読書月間の取組について話をする時間を設定した。感染症予防対策として Zoom を使い、読書への興味・関心を高める目的で、職員の
おすすめの新刊本を紹介したり読み聞かせやアニマシオンを行ったりしている。

②　地域人材（図書館ボランティア・読み聞かせボランティア等）との連携

ア　地域ボランティアによる読み聞かせ※永久津小、幸ケ丘小、細野小、野尻小紙屋小、南小、小林小

地域の読み聞かせボランティアの方に定期的な読み聞かせをお願いしており、読書意欲の向上につながっている。

イ　PTA 図書サポート委員会の取組※小林小

毎月１回、PTA 図書サポート委員会の保護者と図書館協力員による、図書室の環境整備支援を行っている。（※今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、活動できない月もあった。）

③　児童による図書委員会活動等の工夫

ア　イベントの実施※幸ケ丘小

図書委員会による毎月の読書量ランキングの掲示を行ったり、読書スタンプラリー・読書ビンゴ・読書クイズなどの様々なイベントを企画・実施したりと、全校児童が図書に親しめる取組を行っている。

イ　図書委員会による読み聞かせ※西小林小

１年生から３年生を対象に図書委員会児童による読み聞かせを行っている。高学年児童が下学年児童への読み聞かせを行うことにより、高学年児童の自主性を育んだり、下学年児童の図書委員会活動への興味関心や読書を楽しむ雰囲気を高めたりすることにつながっている。

ウ　図書委員会による本の紹介※紙屋小

図書委員会児童による「おすすめの本の紹介」コーナーを作成することにより、児童が積極的に図書館環境づくりに取り組む意識が高まっている。

④　その他

ア　卒業生による読み聞かせ※幸ケ丘小

年に３回、中学生（卒業生）による読み聞かせを行っており、児童が読書への興味関心を高める良い機会となっている。

イ　ＳＳＣ文庫の活用※紙屋小

各クラスに SSC 文庫（市立図書館からの定期配本）や学級文庫を設置している。授業の進度や子どもたちの興味関心の傾向を考えて、身近な場所で本を手にしやすい環境づくりを進めることで、読書活動の充実につなげている。

ウ　家族読書※小林小、南小

保護者を巻き込んだ読書指導になるように、年間３回『家庭読書』を設け、親子での読書活動を推進している。また、学校での読書教育への理解を深めてもらうために、『図書室便り』を家庭に随時発行している。その中で、図書館協力員の紹介や図書委員会の活動内容紹介、『家庭読書週間』プリントに寄せられた保護者の声の紹介などを記載し家庭啓発につなげている。

(2)　学習活動支援「学習センター」としての実践

①　小林市学校図書館支援センター（図書館協力員）との連携

ア　購入図書の選書※小林小、幸ケ丘小

図書を購入する際、昨年度に授業で必要とされた図書資料や、必要だが学校図書館に置かれていなかったり足りなかったりした図書資料がなかったか図書館協力員に相談し、効果的な購入となるようにした。

イ　図書館オリエンテーション※細野小

支援センターへスタッフの派遣を依頼し、学年に応じた図書室の使い方の学習を実施した。

②　学習活動支援のための環境整備

ア　日本十進分類法（NDC）に沿った蔵書整備※東方小

特設コーナー（理科コーナー、社会コーナー、調べ学習コーナー等）があると、蔵書整理がやりにくく、児童も特設コーナーでしか本を探さない状況があった。生涯学習の視点からも、児童が必要な本を考えて選ぶ力が伸びるよう、日本十進分類法（NDC）に合わせた蔵書の配置を整備している。

(3)　児童生徒や教職員の情報ニーズに対応する「情報センター」としての実践

①　市内一斉のタブレットPC導入に伴うＩＣＴ活用の視点に立った取組

ア　School e-Library（電子書籍）の導入【年間契約】※須木小

一人一台タブレットPC導入に合わせて、一人１アカウントの年間契約を行い、常時２０００冊利用可能な電子書籍による読書活動を実施している。(契約金は図書予算内から) 図書予算内からの購入数が限られていることや古い本が増加していることから、電子書籍を導入することで、様々な本に触れる機会を増やした。電子書籍は、補充時間や学級での読書活動で活用した。

３　研究の成果と課題

(1)　成果

○　図書室の使い方の学習を図書館支援センタースタッフと一緒に行うことで、図書館利用についての専門的な部分も含め、わかりやすく指導できた。※細野小

○　電子書籍で様々な本に触れることができている。(月に１回、School　e-Libraryより個人の読書状況のデータが送られる。）出版社８社２０００冊の本が自由に読めることから自分に合った本を選ぶことができる。※須木小

○　読書指導については、読み聞かせボランティアの方々の取組や委員会児童の取組により、児童の読書への意欲や関心が高まっている。※各校

○　読書指導、学習活動支援ともに、PTA 図書サポート委員会の活動や図書館協力員の各小中学校への配置により、学校図書館教育担当職員の業務の一部を担っていただいているため、負担の軽減となり、働き方改革にもつながっている。※各校

(2)　課題

●　新型コロナウイルス感染症対策や一人１台のタブレットPCの導入により、図書の本を利用した調べ学習や読書の機会が減少傾向にある。読書の楽しさや大切さを伝える実践を取り入れていきたい※各校

●　魅力的な学校図書館づくりを目指すために、限られた資源（図書館協力員、委員会児童、地域人材及び蔵書）どのように有効に活用していくか、さらに研究を進めていく必要がある。※各校

●　学校図書館の利用と電子書籍の活用を両立し、読書活動を推進していくこと。10月現在、学校図書館と電子書籍での読書冊数は昨年度の２倍となっている。また、図書予算内より契約しているので、毎年の更新を検討する必要がある。※須木小

〈研究担当者　小林市立　小林小学校　橋口加代子　〉

⑥都城支部　研究のまとめ

小学校４１校

１　研究テーマ　　「学校情報センターとしての学校図書館の活用」

２　研究の実際

（１）研究のあゆみ

令和３年

５月・・・　第１回都城市・三股町合同教育研究会学校図書部会

７月・・・　第２回都城市・三股町合同教育研究会学校図書部会

○　組織づくり及び研究の方向性の検討

○　令和３年度都城・三股地区小学校研究発表担当校確認

○　研究の方向性の協議

○　令和４年度の研究発表に向けた計画立案

８月・・・　都城市・三股町の全小中学校に、学校図書館を活用した授業実践および実践報告書作成を依頼

１０月・・・　第３回都城市・三股町合同教育研究会学校図書部会

○　第４回都城市・三股町合同教育研究会学校図書部会の内容に関する協議

１１月・・・　第４回都城市・三股町合同教育研究会学校図書部会

○　グループ協議「学校情報センターとしての学校図書館の活用について」

令和４年

１月・・・　第５回都城市・三股町合同教育研究会学校図書部会（予定）

（２）研究内容の設定

１１月に実施した第４回都城市・三股町合同教育研究会学校図書部会において、「学校情報センターとしての学校図書館の活用」をテーマに、各学校の図書主任で５，６名ずつのグループを編成し討議を行った。討議後の各グループからの報告を検討した結果、以下の４つの視点でまとめることができた。

①　図書サポーター、市立・町立図書館との連携 ②　インターネットを活用した調べ学習の利点と留意点（書物で調べる場合との比較） ③　資料としての図書に親しませる手立ての工夫 ④　学校図書館を活用した授業の取組

いずれも研究テーマに即した視点であり、研究内容として適していると考えられる。

今後、４つの視点を本研究会で検討し研究内容として設定する予定である。

３　今後の研究活動の予定（令和３年度内）

○　各学校に依頼した授業実践報告の収集と分析および本研究テーマとの関連の検討

○　第４回都城市・三股町合同教育研究会学校図書部会のグループ協議の内容を基にした研究内容の設定

４　課題

○　研究内容の明確な設定

○　研究発表者の決定等、令和４年度の県大会での発表に向けた組織づくり

（研究担当者　都城市立乙房小学校　中村さゆり）

⑦児湯支部　研究のまとめ

小学校　１５校　中学校　１０校　合計　２５校

「都農中学校」の活動の取組

１　はじめに

本校は、全校生徒２２８名（７学級、特別支援学級３学級）の中規模校である。「生徒の読書意欲を高める学校図書館づくりを心がけ、魅力ある図書館運営を行う。」、「学習・情報センターとしての資料を充実させ、発信し、生徒・職員の利用促進を図る。」という目標のもと、委員会活動を中心に他の職員と連携しながら学校図書館の利用促進を行っている。

２　具体的な取組

（１）読書活動の支援

①　朝読の実施

本校は、毎日８：００から８：０５を朝読書の時間としている。読み聞かせが実施される日は、読み聞かせ担当学年以外は読書の時間となり、２０分間の読書活動を行っている。

②　学級文庫の設置

主に朝読書用の本として、学級文庫を設置している。学年に応じた本を設置し、学期ごとに入れ替えをしている。

（２）委員会活動

①図書オリエンテーションの実施

年度初めに、委員会を中心とした図書オリエンテーションを行った。本の借り方を動画で紹介したり、プレゼンテーションを使って本の紹介を行うなどして、学校図書館の魅力を伝えようとする姿が見られた。

②本紹介コンテストの実施

多くの生徒が学校図書館に足を運び、さまざまな本を知ってもらうために、本年度は委員会活動として本紹介コンテストを行った。学校図書館にある本を用いて、本のしおり、もしくは帯を作るというものである。朝読書の時間を活用して紹介したい本を読む機会を確保し、普段本を読まない生徒も参加できるよう委員会を中心に呼びかけを行った。委員会の呼びかけもあって、9割以上の生徒が参加できた。審査結果を掲示し、表彰を行うことで、次年度への意欲へとつなげられると考えられる。

【本の紹介コンテスト】

審査の様子（左）

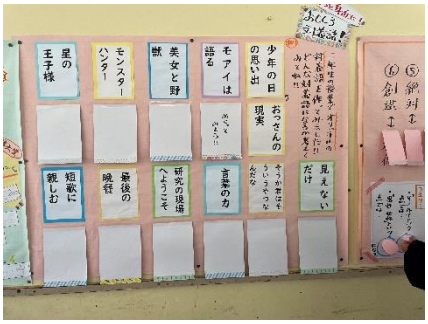
配付用に作成したしおり（中）

審査結果（右）

（3）授業での図書館活用

① 図書室掲示物の作成

１年生は、図書室にある本を用いた本のポップ作成を授業で行い、図書室に掲示した。また、２年生は国語の授業で扱った対義語・類義語を新たに考え、掲示物を作るという活動を行った。作成したポップを見て本を借りようとする姿や、掲示物を見るために図書室に足を運ぶ生徒の姿が見られた。



〈授業で扱った対義語・類義語の掲示物〉

〈１年生　本のポップ〉

② 職員研修の実施

夏季休業期間に職員研修を行い、授業で学校図書館を活用するための情報交換や、本の選書を行った。また、多くの職員に学校図書館へ足を運んでもらうため、昼休みの図書室担当職員を当番制で行っている。そのため、他教科の職員でも学校図書館の本に興味を持ってもらったり、授業中に紹介してもらったりすることができた。

（4）外部との連携

① 読み聞かせボランティア「キャンベル」による、読み聞かせ活動の充実

本校では各学年３回ずつ、計９回の読み聞かせを実施している。読み聞かせの日は朝読書の時間を８時から８時２０分までとなり、読み聞かせの学年以外は朝読書の時間としている。

② 町雇用図書館司書による学校図書館の整備

本校は、町雇用図書館司書が週１回３時間勤務されており、委員会活動の補助や学校図書館の環境整備、本の紹介などを行っていただいている。季節に応じた掲示物や飾り付けがされているなど、掲示物や本の配置に様々な工夫があり、生徒たちの目に留まりやすく、飽きさせない環境づくりが行われている。

〈町雇用図書館司書による、掲示物や本の紹介コーナー〉

３　今後の活動の展望

委員会活動を通して、本に触れる機会や学校図書館に足を運ぶ機会を増やすような取り組みができたが、単発的な活動が多く、継続的な働きかけがあまりできていなかったように思う。次年度は、常に魅力ある学校図書館を作れるよう、年間を通した活動を計画していきたい。

⑧西都支部　研究のまとめ

小学校　８校、中学校　６校、合計　１４ 校

『西都市立茶臼原小学校の活動の取組』

１　はじめに

本校は、各学年１クラス、総児童数 45 名の小規模校である。図書室の運営は、西都市より配置されている図書館推進委員（週１回３～４時間勤務）と図書担当の教諭が行っている。

２　実態

本校は貸し出し冊数が全体的に少ないうえに、個人差がある。今年度は、「図書室貸し出し冊数３０００冊」を目標に、読書推進委員や図書委員会の児童と読書意欲を高めるためにいろいろな取組を行ってきた。

３　読書意欲を高めるための取組

⑴　学力向上部（図書担当教諭）からの働きかけ

①　地域のボランティアの方による読み聞かせの計画

学期毎に各学年２回ずつ「読み聞かせ」の時間を設定していたが、今年度はコロナ感染予防のため７月～１０月は中止とした。11 月から再開し、児童は、読み聞かせを楽しみにしている。

②　「米良美一による読み聞かせコンサート」の実施（西都市民会館主催）

西都市民会館のアウトリーチ事業「米良美一の読み聞かせコンサート」に申しこみ、１０月２７日に本校にて、コンサートを実施していただいた。プロの音楽と読み聞かせを聞くことで、児童もすんなりとお話の世界に入りこみ、「体育館が森に見えた。」「今度、読み聞かせしてもらった本を読んでみたい。」など、感想を述べることができた。コンサート後、西都図書館のご協力のもと、図書室に「米良さんのおすすめの本コーナー」をつくり本を紹介した。

【　コンサートの様子　】

【　米良美一によるおすすめの本コーナー　】

③　西都図書館の図書貸し出しサービスの活用

２か月に１回、各学年の学級文庫用に西都市図書館から本の貸し出しを行った。学習に使う本などを前もって希望し、調べ学習などに役立てることができた。

④　「読書の日」の実施

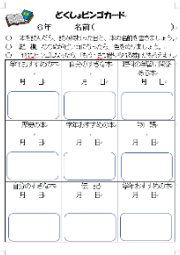
６，９，１１，２月、家庭に読書カードを配付し、児童が読んだ本の感想を絵と文で表現した。保護者の欄も設け、親子で読書に親しむ機会とした。提出された同書カードは、掲示板に掲示した。

⑤　「読書ビンゴ」の実施

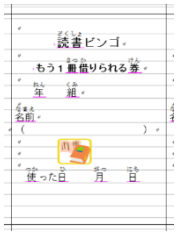
11 月を読書月間とし、「読書への関心を高め、本に親しむ態度を育てる。」をめあてに、「おすすめの本

を読もう～読書ビンゴ～」を実施した。読書推進委員の方に、学年おすすめの本の選定とおすすめの本コーナーの設置をお願いし、ビンゴが達成した児童には、「もう１冊借りられる券」をプレゼントした。

【学年おすすめの本コーナー】



【　ビンゴカード　】



【　もう１冊借りられる券　】

⑥　異学年間での読み聞かせと読書の時間の実施

毎週金曜日のかがやきタイム１４：１０～１４：２５（15分間）を読書タイムとし、6年生は1年生に5年生は2年生に読み聞かせをし、他学年は各自が読書に親しむ時間とした。

【読み聞かせをしている５年生】

⑵　読書推進委員の働きかけ

①　季節感が感じられるような図書室の運営をしてくださった。
②　本の貸し出しに積極的に関わっていただき、発達段階に合う本を紹介してくださった。
③　授業で使う本など、すぐに西都図書館と連絡をとり用意していただいた。
④　新規図書の購入時の本の選定の協力や注文・廃棄などもしてくださった。
⑤　新刊図書コーナー、学年おすすめの本コーナーなど設置していただいた。

【　新書のお知らせ　】

【　１年生の授業に合わせて　】

⑶　図書委員会の働きかけ

①　図書貸し出しの放送

図書貸し出しの呼びかけとともに、貸し借りに来た児童に「おすすめの本」を書いてもらい、それを昼の放送で紹介した。

②　読書まつりの実施

１１月１９日(金)の昼休みに、図書委員の児童が実施した。全校児童を対象にした大型絵本の読み聞かせや低・中・高学年対象の図書クイズを行い、全問正解者には、図書委員特製しおりをプレゼントした。

研究のまとめ

【大型絵本の読み聞かせ】

【読書クイズ】

【読書クイズに参加している児童】

③　多読賞の発表と表彰

２か月に１度、各学年１名、多読書の発表と表彰を行った。

⑷　その他

①　国語の学習に合わせた掲示

５年「作家で広げるわたしたちの読書」では、紹介したい本のポップを制作し、図書室廊下に掲示した。

【５年生による本の紹介】

４　研究の成果と課題

⑴　成果

○　本に興味を持つ児童が増え、図書貸し出し冊数が、昨年同時期（１１月まで）の約１，８倍に増えてきている。

○　「おすすめの本～読書ビンゴ～」の取組を通して、各学年読書の幅が広がってきている。

⑵　課題

○　読書量の個人差は、まだ大きく、読書への啓発のための更なる工夫が必要である。

○　学年や発達段階に応じた本の選定も含め、読書の質の向上のための取組の工夫が必要である。

＊　西都支部主任会より、「図書館教育の現状や課題」

○　本年度は、図書館支援員の方の出勤が大はばに減り、西都市内の多くの小中学校は、図書館運営に支障をきたしている。

〈研究担当者　西都市立茶臼原小学校　内田理惠子　〉

⑨南那珂地区教科等研究会図書館教育部会　研究のまとめ

小学校　２５校、中学校　１０校、合計　３５校

１　研究主題

「豊かな心と学びを育む学校図書館」

２　研究の実際

昨年度からコロナウイルス感染症対策を行いながら学校図書館教育を行ってきた。南那珂地区においては図書館教育に関するアンケートを行い、各校の実践の工夫をメールにて報告することで全体共有を図った。また、南那珂地区図書館教育推進校が中心となって実践を共有し、各校で児童生徒の学校図書館教育の実践を行った。推進校の取組は、日南市の図書館教育担当者会にて実践発表を行い、各校の実践とともに共通理解を図った。

（1）各校の実践（アンケート結果）

①　各学校での取組

○　各教科及び総合的な時間との関連での取組(学校で取り組んでいるもの)

・地域学習での調べ学習(16校)　・教科での調べ学習(17校)

・平和学習（3校）　・国語科・英語科授業での辞典活用（16校）

・キャリア教育に関連した活動（7校）　・その他[国語での並行読書]（1校）

【国語科における取組例】

第6学年と第5学年が連携し、おすすめの本の紹介を行った。紹介したい本の人物関係図を作成し、本の面白さを紹介するという内容である。「6年生の発表を聞いて、自分も人物の関係をとらえながら本を読んでみたい。」といった感想が聞かれた。このような活動を通して、児童の読書に関する学びの意欲を高め、豊かな心を育むことができた。

②　学校図書館の活性化のための取組

○　学校全体での取組

・　読書貯金通帳、読書週間の設定、読書時間の確保

・　朝の読み聞かせ(地域のボランティアによる、上級生による)

・　児童会、生徒会活動における各校の取組

「図書貸出し大作戦」「多読賞」、「もう一冊かりられる券」「お薦めの本の紹介」、「ビブリオバトル」、「読書ビンゴ」、「読書スタンプラリー」、「読書おみくじ」「読書ガチャ」、「昼休み図書室利用の人数カウント」、「しおりの贈呈」「読書スタンプラリー」

・　読書カードの配布（100冊分スタンプやシールを集めるカード）

・　学級文庫の充実　・　教科書に載っている本の購入

・　学校図書司書との連携(アニマシオン、読み聞かせ、ブックトークなど)

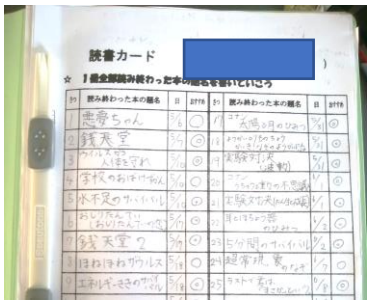
・　図書室のレイアウトの工夫

・　保護者(地域の方)による読み聞かせ、家読

・　市立図書館との連携(移動図書、読み聞かせ)

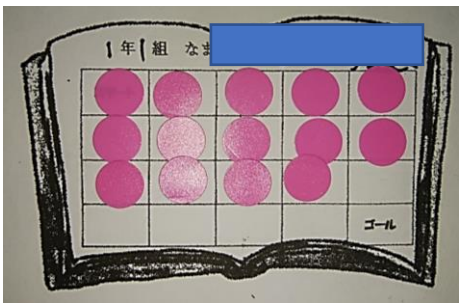
・　面接、作文、進路、防災、戦争等のコーナーの設置

・　文化祭におけるビブリオバトル



【読書貯金通帳の取組例】

総読書数を記載する読書貯金通帳に取り組んでいる。1人1つずつ読書貯金通帳のファイルを作成することで、6年間分が綴られることとなる。



【読書スタンプラリーの取組例】

本を借りる毎にスタンプを押していくものである。台紙がいっぱいになると、手作りのしおりがプレゼントされる。取り組んだ月の貸出冊数が倍になり効果が見られた。

【読み聞かせの取組例】

コロナウイルス感染症対策を考慮し、大型テレビにて密にならないように実施をした。委員会児童がタブレットで事前に撮影し、紙芝居形式で読み聞かせを行った。

③ 学校での感染症対策や、活動の際新しく取り入れた工夫
- 学年が重ならないような教室配当の工夫、学年による貸出日の指定
- 座席の工夫、対面にならない配置
- 昼休みは、貸出・返却のみの利用（閲覧は不可）
- 書架のレイアウトの変更(机と机の間に本箱を置く)

④ 図書館教育推進校の実践
- 他校と連携したビブリオバトル（オンラインでの実践）の実践
- 児童会、生徒会による読書意欲を高める取組（読み聞かせ、読書スタンプラリー）
- 学校図書館における読書環境の工夫

3 成果と課題

各学校から寄せられた成果と課題は以下のとおりである。

（1） 成果

○ 市内を兼務する学校図書館司書との連携により、調べ学習に必要な図書を効率的に集め、各校で活用することができた。結果として、調べ学習等での活用を充実させることができ学びを充実させることができた。

○ 教科書が新しくなったので、市内兼務の図書司書と連携し、必要な図書を購入した。

○ 運動会等の行事と結びつけた活動を新たに行い、読書意欲を高めることができた。

○ ファミリー読書に取り組んでいる学校もあり、家庭への啓発ができた。家庭で豊かな心を育むきっかけ作りができた。

○ 各校において児童生徒会が中心となった取組が多く、児童生徒が主体的に読書活動推進に取り組むことができた。

○ 図書館教育担当者会での実践報告で、推進校の実践、各校の実践について共通理解を図ることができた。

○ コロナウイルスの状況下で、安全に読書に親しむための工夫を各校で行うことができた。

（2） 課題

● 選書や古書廃棄における担当の負担軽減に向けた取組

● 調べ学習や教科で使用する図書の充実

● 図書館での密回避の工夫

● 文字嫌いの児童生徒への指導の充実

⑩宮東支部　研究のまとめ

『国富町立森永小学校』の活動の取組
～学校における読書指導について～

1　はじめに
　宮東支部では、令和５年度の宮崎県学校図書館教育研究大会都北大会に向けて、森永小学校を始めとする各小中学校において、読書指導を充実させていくことを目的としている。

2　今年度の活動の概要
(1)　本校の現状
　本校は全校児童１０３人の小規模校である。昔ながらの代本板とカードによる図書の貸出が長年続いてきた。図書館の場所が今年度から移転し、ＰＣの導入も決定した。本年度は、図書館の整備を進めるとともに委員会での活動を軸に、児童と本をつなげていく読書指導について考えた。

（2）　実践事例
①　図書館の整備
・本校の蔵書数や購入年度を考慮しながら本を廃棄し、本の精選を行った。
・移転前は本の並びが曖昧になっていたため、バーコードを貼り付ける作業とともに、分類番号ごとに本を並べていけるよう本棚の整理を行った。

②　読書推進につながる取組
ア　朝の読み聞かせ活動
コロナ渦に伴い、地域と連携した朝の読み聞かせが滞っている。高学年児童や、委員会児童が自ら選書し、10～15 分のプログラムを構成して下学年に読み聞かせを行った。

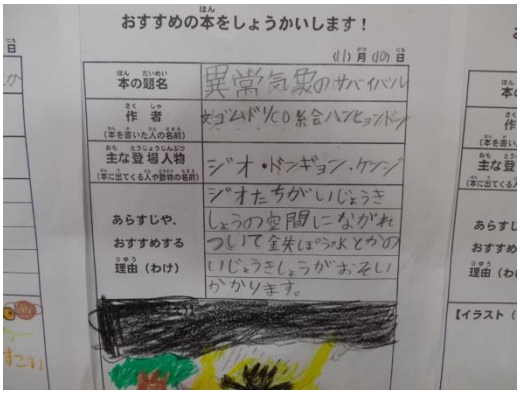
イ　親子読書週間の設定
毎月１５日を「親子読書の日」として位置づけ、家庭に呼びかけている。２か月に１回は学年ごとに掲示することで、相互に本を紹介する機会になっている。

ウ　読書集会の実施

委員会児童が、本の紹介やクイズ、図書室の利用についての発表を行った。借りに行きたくなるように新刊からクイズをつくったり、分類番号を再確認できるよう丁寧に説明したりと工夫していた。

エ　読書旬間中の取組

読書集会を行った１１月を「読書旬間」とし、その期間は図書館におすすめの本を絵や文で表す“本の紹介カード”を置くようにした。書かれたカードは掲示し、学年を越えて本を知る機会とした。



３　おわりに

ＰＣ導入に伴う貸出操作に、委員会児童、職員ともにやっと慣れてきたところである。郡内の各学校の図書主任の先生方のアドバイスをもとに、更に図書館の整備を進めながら、読書指導の充実を図っていきたい。

〈研究担当者　国富町立森永小学校　原　陽子　〉

⑩宮崎支部　研究のまとめ

小学校　４８校、中学校　２７校、合計　７５校

１　研究主題
『豊かな心と学びを育む学校図書館～学校における読書指導～』

２　研究の実際

(1) 図書館教育熊本大会での紙面発表

①　掲示物、設営の工夫

ア　読書アシスタントによる新刊掲示（高岡中他）
年度当初に新刊掲示を教員または読書活動アシスタントが作成し、後日それを利用して生徒が新刊掲示を作成する。

イ　通算読書量掲示（木花中）
学校全体での読書目標や達成度を明確にすることで、読書意欲を高める。

ウ　テーマ展示（高岡中）
職場体験の時期に、職業の本（職業を説明する本だけではなく、小説などを含む）、古典学習の時期に、古典に関連する本をコーナー展示する。

エ　教師のおすすめ本展示（本郷中）
全職員に呼びかけて「おすすめ本」紹介を作成する。その中で図書館にない本は購入し、紹介するすべての本を図書館で貸し出せるようにした。

オ　本の福袋フェア（青島中）
何冊かまとめて袋に入れた「本の福袋」を準備。さらに福袋の中に感想シートを同封し、そのシートを提出すると抽選でプレゼントがもらえる二段構えのイベントを実施。

②　生徒による委員会活動等の工夫

ア　文化発表会における図書館紹介（加納中）
文化発表会のステージ発表でパワーポイントを作成し、図書館利用についての発表とブックトークを３年生が行なった。

イ　図書館祭り（各校）
時期を定めて、図書館祭りを実施した。内容としては、しおり作成、図書館クイズ、手作りパズル、スタンプラリー、もう一冊券プレゼントなど生徒主体で企画実施をしていた。

ウ　ポスター、掲示物作成（各校）
図書館利用ルール啓発ポスター、おすすめ本紹介、季節にあった掲示物の作成などを教員ではなく生徒が委員会活動の一環として行った。

③　学校全体での取り組み

ア　読書記録帳（大塚中）
三年間持ち上がる一人一人の読書の記録を記している。多読賞やおすすめの本紹介にも活用している。

イ　ブックリストと紹介カードの作成（生目台中）
「生目台中の 100 冊」を選定し、夏休みの課題読書としても利用した。

④　そのほか
ア　ALT による読み聞かせ
イ　朝の読書週間の設定
ウ　学級文庫の設置
エ　ブックトークの実施
オ　図書便りの発行
カ　生徒とともに選書会実施

３　その他の取組
(1)　来年度の県大会にむけて、テーマである「特別支援教育と図書館教育」について、市内すべての学校にアンケートを実施した。

(2)　発表校である木花小学校が現在、取り組みをまとめている。

４　研究の成果と課題

(1)　成果
○　各校とも委員会活動などを通して、児童・生徒が主体的に読書活動を推進することができている。
○　各校とも読書に興味のある児童・生徒の読書意欲を高める効果はあった。

(2)　課題
●　利用者が固定化しがちである。読書意欲の低い生徒を引きつける読書活動についてさらに工夫が必要である。
●　魅力ある図書館となるよう学校司書や読書活動アシスタントとの連携をさらに図っていく必要がある。

〈研究担当者　宮崎市　立　加納中　学校　川越　由紀　〉